

## IMFの世界経済見直し改定

## シャイニング・インド（マクロ関連）～2023年の成長率は主要国で最高となる見直し～

国際通貨基金（IMF）は2022年10月に世界経済見通しの改訂を発表、2023年の世界経済の実質GDP成長率見通しを2.7%に引き下げました（前回7月時点では2.9%）。ロシアのウクライナ侵攻とインフレ圧力の長期化・広範化、中国経済の減速という3つの強力な要素の影響が続いていることが下方修正の主な要因です。

また、2020年のコロナ禍の景気減速を除くと2009年以来最低の成長率になる見直しです。

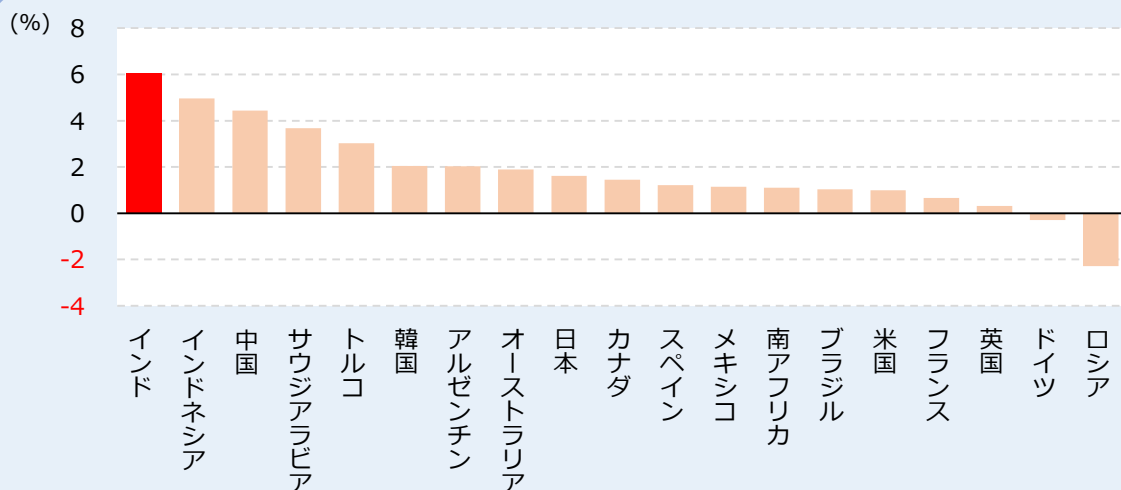
このような中、インドの2023年実質GDP成長率見通しは6.1%に据え置かれました。外需の縮小と通貨・金融環境のタイト化が成長の足を引っ張ると考えられ、2022年の6.8%からは減速するものの、底堅い成長が続くことが予想されます。

なお、2023年のインドの成長率は世界の主要国で最高となる見直しです。

## 2023年の実質GDP成長率見通しの推移

	2022年1月時点	2022年4月時点	2022年7月時点	2022年10月時点
世界	3.8%	3.6%	2.9%	2.7%
先進国	2.6%	2.4%	1.4%	1.1%
新興国	4.7%	4.4%	3.9%	3.7%
米国	2.6%	2.3%	1.0%	1.0%
ユーロ圏	2.5%	2.3%	1.2%	0.5%
日本	1.8%	2.3%	1.7%	1.6%
中国	5.2%	5.1%	4.6%	4.4%
インド	7.1%	6.9%	6.1%	<b>6.1%</b>

## G20参加国の2023年の実質成長率見直し比較



## ご留意事項

- 当資料は、情報の提供を目的として、パインブリッジ・インベストメンツが作成した参考資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありませんし、特定の有価証券の売買、ファンド、商品を勧誘、推奨するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料中の記載事項、数値、図表等は、当資料作成日時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。なお、当資料中のいかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第307号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会